

## 令和5年度学校保健統計調査結果（高知県分）【概要】

### 1 発育状態

男女ともに身長・体重は近年横ばい傾向にあり、全国もほぼ同様の傾向となっている。

#### ○身長

- ・男子は7、9歳を除く年齢で全国平均を下回っており、13歳(159.7cm)では全国平均より1.4cm低く、最も差が大きい。
- ・女子は10歳を除く年齢で全国平均を下回っており、14歳(155.3cm)では全国平均より1.1cm低く、最も差が大きい。

#### ○体重

- ・男子は9、15、16、17歳で全国平均を上回っており、17歳(63.3kg)では全国平均より1.3kg重く、最も差が大きい。
- ・女子は10、11、14、15、16歳で全国平均を上回っており、16歳(53.0kg)では全国平均より0.8kg重く、最も差が大きい。

### 2 肥満傾向児の出現率

男子はおおむね増加傾向、女子はおおむね横ばい傾向にある。全国は男女ともに近年おおむね増加傾向で推移していたが、令和5年度は多くの年齢で低下が見られる。

- ・男子は5、7歳を除く年齢で全国平均を上回っており、17歳(15.62%)では全国平均より5.33ポイント高く、最も差が大きい。
- ・女子は7、9歳を除く年齢で全国平均を上回っており、11歳(12.38%)では全国平均より2.68ポイント高く、最も差が大きい。

### 3 健康状態

★裸眼視力1.0未満の者の割合は、おおむね増加傾向にあり、全国も同様の傾向。  
令和5年度の割合は、中学校と高等学校で全国平均を上回り、幼稚園と小学校では下回っている。  
★むし歯(う歯)の者の割合は、減少傾向にあり、全国も同様の傾向。  
令和5年度の割合は、小学校と高等学校で全国平均を上回り、幼稚園と中学校では下回っている。

#### ○主な疾病・異常の被患率別

- ・幼稚園・小学校  
「むし歯(う歯)」(幼稚園22.4%、小学校41.6%)の者の割合が最も高く、次いで「裸眼視力1.0未満」(幼稚園21.8%、小学校35.5%)の順となっている。
- ・中学校・高等学校  
「裸眼視力1.0未満」(中学校61.9%、高等学校70.1%)の者の割合が最も高く、次いで「むし歯(う歯)」(中学校25.6%、高等学校38.7%)の順となっている。

#### ○主な疾病・異常の被患率の対前年度比較

- ・「裸眼視力1.0未満」の者の割合は、中学校で前年度を上回っているが、小学校、高等学校では下回っている。
- ・「むし歯(う歯)」の者の割合は、全ての区分で前年度を下回っている。

#### ○主な疾病・異常の被患率の対全国比較

- ・「裸眼視力1.0未満」の者の割合は、中学校、高等学校で全国平均を上回っているが、幼稚園、小学校では下回っている。
- ・「むし歯(う歯)」の者の割合は、小学校、高等学校で上回っているが、幼稚園、中学校では下回っている。

### 4 新型コロナウイルス感染症による影響

- ・令和5年度については、令和2～4年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、健康診断を当該年度末までに実施(例年4月1日から6月30日までに実施)することとなったため、学校保健統計調査においても調査期間が年度末まで延長された。このため、本集計結果は、成長の著しい時期において測定時期を異にしたデータを集計したものとなっており、過去の数値と単純比較することはできない。

#### ■県教育委員会のコメント

肥満傾向やむし歯(う歯)、裸眼視力低下等の児童生徒等の健康課題については、基本的な生活習慣をはじめ日常生活の様々な要因が複合的に影響していると考えられる。引き続き、学校における健康教育に取り組むとともに、保護者や関係機関、健康部局と連携を図りながら、望ましい生活習慣・運動習慣の定着に取り組んでいく。(担当課：保健体育課)